

認定薬局等整備事業推進特別委員会委員一覧

				WG分担			
●委員				認定要件	実地研修	Web研修	連携
	氏名	所属	職種				
◎	眞野成康	東北大学病院	薬剤師				
○	松浦正樹	東北大学病院	薬剤師	●		○	●
○	佐藤真由美	東北大学病院	薬剤師	○		●	○
	菊地正史	東北大学病院	薬剤師		●		
	鈴木成美	東北大学病院	薬剤師				
	武藤理恵	東北大学病院	薬剤師				○
	高橋裕保	栗原中央病院	薬剤師				
	遠藤武弘	光ヶ丘スペルマン病院	薬剤師				
	土屋雅美	宮城県立がんセンター	薬剤師				
	成ヶ澤稔彦	仙台市立病院	薬剤師				
●特別委員							
	氏名	所属	職種				
	井上淳	東北大学病院	消化器内科医師				
	富田尚希	東北大学病院	加齢・老年病科医師				
	高橋昌弘	東北大学病院	腫瘍内科医師				
	森川昭正	宮城県薬剤師会	理事	○		○	
	松浦綾子	ひかり薬局	薬剤師	○	○		○
	岩田慎吾	日本調剤薬局	薬剤師	○	○		○
	田坂英久	カメイ調剤薬局	薬剤師	○	○	○	
	白石美恵	バイタルケア	介護支援専門員				
	大竹茜	東北大学病院	MSW				
	山内悦子	東北大学病院	看護師				
	高橋令子	宮城県薬務課					
	木村由理	宮城県薬務課					

◎委員長 ○副委員長

●WG長 ○WG員

【概要】

● 各事業のスケジュール

令和2年10月	ワーキンググループの開催
令和2年11月	事業全体会議と実地研修プログラム受講生の募集開始
令和2年10月	門前薬局を対象とした情報連携の試行を開始
令和2年10月	医療連携研修開始（県内複数箇所で開催）
令和2年11月	がん患者のフォローアップ体制強化及びポリファーマシーに係る連携業務モデルを確立する。
令和2年12月	実地研修プログラム（基礎編）開始
令和2年12月	情報連携の試行結果を踏まえ、宮城県全体で運用を開始
令和3年1月	実地研修プログラム（専門編）開始
令和3年2月まで	医療連携研修会を終了。アンケートによる効果検証
令和3年2月まで	がん患者のフォローアップ体制強化及びポリファーマシーに係るアンケートを終了。効果測定

● 各事業実施における体制

- ・コアメンバーで以下の SubWG を構成し、実施事業の提案と実施を図る。なお、SubWG には、各関連団体のオブザーバー参加も可とする。

【実施事業】

● 認定薬局認定要件検討 WG

担当：森川（県薬）、佐藤（東北大）、松浦（東北大）、田坂（カメイ薬局）、松浦（ひかり薬局）、岩田（日本調剤）

- パブリックコメントの動向を踏まえ、薬務課及び県薬等の関連団体との意見調整と案を構築する

● 実地研修（地域連携・専門医療機関連携）検討 WG

担当：菊地（東北大）、田坂（カメイ薬局）、松浦（ひかり薬局）、岩田（日本調剤）

- 本事業ではパイロット研修として門前から研修生を募る
- パイロット研修は次年度の本格実施に向けた研修のブラッシュアップが目的
- 実施中並びに実施後に受講側・指導側双方から意見を聞いて本格実施研修に取り入れる

● Web 研修（地域連携・専門医療機関連携）検討 WG

担当：佐藤（東北大）、松浦（東北大）、森川（県薬）、田坂（カメイ薬局）

- 地域包括ケア、地域連携、在宅ケア、がん、ポリファーマシー、MMWIN 等を取り上げる
- 今年度末までに最低限上記キーワードをすべて含んだ形で実施する（回数は2～3回）
- 研修後のアンケートを実施する

● 地域連携検討 WG（がん患者フォローアップ体制の構築、ポリファーマシー対策）

担当：松浦（東北大）、佐藤（東北大）、武藤（東北大）松浦（ひかり薬局）、岩田（日本調剤）

- 情報連携体制の構築（QR コードの活用）
- 情報連携のタイミングの最適化と方法
- 情報連携手帳の開発
- 好事例収集と周知